

## うるま市宮城島方言の格・とりたての資料

中本 謙（琉球大学）

### 1. うるま市宮城方言の概況

うるま市宮城島の概況については中本（2020）（2021）<sup>1</sup>のなかですでに述べたが、あらためて以下に示す。

沖縄本島中部の東側に勝連半島がある。半島から北東に「海中道路」が伸びており、平安座島、宮城島、伊計島へと道路は続いている。

宮城島は、周囲 12.2 km、面積 5.51 km<sup>2</sup>と比較的周辺の島々より面積が広く、標高 100 メートルを超える台形をしていることから、別名「高離島（たかはなりじま）」、「はなり」等と呼ばれている。

集落は、上原、宮城、池味、桃原の4つからなる。島の南西の平坦部に桃原が位置し、島の高台の東崖下に上原と宮城が幅3メートルの道を境に立地している。北東の漁港に面して池味がある。

方言的特徴から4集落をみると、基本的に上原、宮城、池味の3集落はハナリクトゥバといわれ、ほとんど差異がないとのことである。桃原は首里、平安座などからの移住者によるいわゆるヤードゥイ（屋取）の集落であり、3集落の方言とは異なる。

（参考 宮城自治区 2005『なあくすく字誌』）

本調査では、宮城集落を対象とする。2022年1月現在、世帯数93、人口は149人である。方言区画上、沖縄本島中南部方言に属する。

主な音声的特徴として以下のものが挙げられる。

#### ①サ>ハ

[hatʃi]ハチ（先）、[juhandi]ユハンディ（夕方）、[hato:]ハトー（砂糖）。沖縄本島中南部那覇方言では[satʃi]サチ（先）、[jusanri]ユサンリ（夕方）、[sa:ta:]サーター（砂糖）となる。

#### ②シ>ヒ

[çitʃa]ヒチャ（下）、[ru:çi:]ルーヒー（雑炊）。沖縄本島中南部那覇方言では、[jitʃa]シチャ（下）、[dʒu:çi:]ジューシー（雑炊）となる。

#### ③破擦音の摩擦音化

<sup>1</sup> 中本（2020）「うるま市宮城島方言の動詞活用の資料」『シマジマのしまくとぅば1 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究 令和元年度』琉球大学島嶼地域科学研究所、中本（2021）「うるま市宮城島方言形容詞の資料」『シマジマのしまくとぅば2 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究 令和2年度』琉球大学島嶼地域科学研究所

[jinnuku] シンヌク (里芋)、[ji:] シー (乳)、[jina:] シナー (綱)、[jimi] シミ (爪)、[su:] スー (今日)。沖縄本島中南部那覇方言では、[tjinnuku] チンヌク (里芋)、[tji:] チー (乳)、[tjina] チナ (綱)、[tjimi] チミ (爪)、[tju:] チュー (今日) となる。

これまで宮城島方言については、2020 年度に動詞の資料、2021 年度に形容詞の資料の報告を行った。本年度は、格・とりたての資料について報告する。

・話者は根保幸徳氏 1933 年生。調査は、2020 年 12 月、2021 年 12 月に、新型コロナウイルス感染防止対策をしたうえで臨地調査を行った。

## 2. うるま市宮城島方言の格・とりたての資料

1	(ごめんください。) 太郎、いる?	taro:ja wu:nna.
2	ううん、太郎は いないよ。	ji:ji:, taro:ja wuran.
3	どこに 行ったの?	ma:ŋkai ?idzaga. ma:kai ?idzaga.
4	太郎は、朝から 畑に 芋を掘りに いる。	taro:ja ?asakara harukai ?mmu phi:ga ?idzo:n.
5	いつ 帰ってくるの?	?itfi ke:ti su:ga.
6	昼ごはんの 前には 帰ってくる。	?asabannu me:ne: ke:ti su:n.
7	時間が あるなら お茶でも 飲まない?	dzikannu ?are: sa:jatin numanna.
8	ううん、11 時までに 家に 戻らなくては いけない。	ji:ji:, dzu:it?idzimadine: ja:ŋkai mudurande: naran.
9	昼ごはんの あとで もう一度 来るね。	?asabannu ?atu na: tsuke:ma: su:kutu(su:ndo:).
10	私は 今日 忙しいから、だれか 役場に 行って くれませんか?	wano: su:ja ?itsunaha:kutu, ta:gajara: jakubanikai ?ndziturahangaja:.
11	役場へは 私たち 二人で 行って もいいよ。	jakubancae: watta: tai?i ?idzin?imundo:

12	車が 無いから バスカ タクシーで 行こう。	kurumanu ne:ŋkutu basuka takuʃi:ʃi ʔika.
13	小銭が 無かったので、紙幣を硬貨に 替えて もらった。	gumadzinnu ne:nte:kutu, kabidziŋ ku:dʒinuŋkai ke:tan.
14	あ、バス 来たよ。	ʔane: basunu kitʃando:.
15	えっ、こんなに 早く バスが来たの？	he: ʔaŋʃi he:ku basunu kitʃanna.
16	うん。 もう 来たんだよ。	ʔo:, na kitʃando:.
17	さあ、あの バスに 乗ろう。	di:, ʔanu basuŋkai nuraja:.
18	わたしの 鍬 その辺に ある？	wa: kwe: ʔmmarika:ŋkai ʔa:nna.
19	どこを さがしても 鍬が 無いんだよ。	ma: tume:tiŋ kwe:ja ne:nde.
20	あった。あった。ここに あったよ。	ʔa:tan. ʔa:tan. kumaŋkai ʔa:tando:.
21	どれが おまえの 鎌だ？	dure: ʔja: ʔiran jaga.
22	その 柄の 短い 鎌が 私の だ。	ʔunu tikanu ʔintʃaharu ʔirano: wa:mun jasa.
23	この 柄の 長い 鎌は 三郎のか？	kunu tikanu nagaha:ru ʔirano: saburo:nuru ʔe:nna.
24	ううん、それは 弟の 鎌じゃない。	ʔaran ʔure: ʔuttunu ʔirano: ʔaran.
25	この 鎌は 三郎の 鎌じゃないのか？	kunu ʔirano: saburo:nu ʔirano: ʔaranna.
26	うん、それは 弟の 鎌じゃない。	ʔo:, ʔure: ʔuttunu ʔirano: ʔaran.
27	じゃあ、この 鎌は 誰のだ？	ʔanse: kunu ʔirano: ta:munga(ta:mun jaga).
28	それは おじいさんの 鎌かもしれない。	ʔure: mppu:nu ʔiraŋgajara: wakaran.
29	太郎は あした 那覇へ 友だちに 会いに いくらしい。	taro:ja ʔatʃa na:haŋkai duʃi ʔitʃai:ga ʔitsuru hadzido:.

30	ここから 那覇までの 船賃は いくらなの？	kumakara na:hamadinu φunatʃino: tʃassa: jaga.
31	往復で 五千円ぐらいだろう。	ʔndʒi kitʃaiʃi gosenembike: jaru hadʒi.
32	沖縄には 飛行機で 行くより 船で 行った ほうが 安い ね。	ʔutʃina:ŋkaija ɕiko:kiʃi ʔitʃuʃjuka φuniʃi ʔitʃuʃigaru jassando:.
33	でも、船は 一日に 一回しか ないよ。	jaʃiga φune: ʔitʃinitʃini ʔikkwairu ʔa:ndo:.
34	港なら こっちの 道が 近道 だ。	nmatujare: kunu mitʃigaru tʃikamitʃi ʔe:ndo:.
35	車が 来るから、道の まんな かを あるいては いけない。	kurumanu su:kutu mitʃinu mannaka: ʔattʃe: narando:.
36	港で 甥の 五郎に 会った。	nmatuwuti mi:kwanu goro:tu ʔitʃatan.
37	那覇からの 船に 乗って来た んだって。	na:hakaranu φunini nuja:i kitʃandi(kitʃandina).
38	五郎は 日曜日まで 島に い て、月曜日に 帰るそうだよ。	goro:ja nitʃijo:bimadi ʃimaŋkai wuti getsujo:bini ke:jundi:.
39	たしか お宅の お孫さん 小 学生だったよね。	taʃika ʔja: ʔmmaga: ʃo:gakuʃi: jatanja:.
40	うん、去年から 小学校に 通 っている。	ʔo: kudukara ʃo:gakko:ŋkai ʔidzo:ndo:.
41	孫は 目と 口が 私に よく 似ている。	ʔmmaga: mi:tu kutʃinu wanuŋkai dziko: nitʃo:N.
42	ここは 海に ちかいので 魚 が うまい。	kuma: ʔumiŋkai tʃikaha:kutu ʔju:nu ma:han.
43	一郎は 朝から 海へ 魚を とりに いった。	ʔitʃiro:ja ʔasakara ʔumiŋkai ʔju:tuiga ʔidzan.
44	おまえは この 魚の 名まえ を 知っているか？	ʔja:ja kunu ʔju:nu na: ʃittʃo:nna.
45	これは カツオだろう？	kure: katsu:ja ʔaranna.
46	うん、 そうだよ。 カツオだ よ。	ʔo:, ʔan jando: katsu: jasa.

47	肉より 魚の ほうが おい しい。	fɪfɪjuka ʔju:nuru ma:han.
48	私は タコの さしみが 食べ たい。	wano: takunu namaʃigaru kamibusa:ru.
49	刺身も おいしいけど、 焼い た 魚も おいしいよ。	namaʃim ma:ha:ʃiga jatʃe:ru ʔju:m ma:hando:.
50	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？	sake: tʃ <sup>ʰ</sup> a:ʃi tsukujuga ʔja:ja ʃittʃo:ruja.
51	うん。酒は 米から つくるん だよ。	ʔo:., sake: kumikara tsukujundo:.
52	私は 酒さえ あれば 他には なにも いらぬ。	wano: sakinu ʔare: ɸukani nu:n ʔiran.
53	二郎は 酒も 飲まないし、た ばこも 吸わない。	dziro:ja sakin numan, tabakun ɸukan.
54	雨の ふる 日には 太郎は 家で テレビばかり 見てい る。	ʔaminu ɸujuru ɕi:ja taro:ja ja:wuti terebibike: nttʃo:n.
55	おれは さつまいもなんか 食 べないぞ。	wano: ʔmmo:(ʔmmuja) kamando:.
56	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。	kadi nindzurubike: jare: ʔinja maja:tu junumun jasa.
57	たまには お父さんの 手伝い ぐらい しろ。	tamane: tʃa:tʃa:nu tigane:(taʃiki) ʃi(se:).
58	太郎、 この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。	taro:., kunu nimutʃi ja:madi katamiti ʔndzi turafi.
59	荷物が 重いので、 二郎と 二人で もっても いいか？	nimutʃinu ʔmbuha:kutu dziro:tu taiʃi muttʃin ʃimunna.
60	いとこの 花子は 英語の 本 が 読める。	ʔitʃikunu hanako: jeigonu ʃimutʃinu jumiu:sun.
61	私は 花子に 英語を 教えて もらった。	wano: hanakonʃkai jeigo nara:hattan.
62	去年 花子が 中学の 先生に なった。	kudu hanako: tʃu:gakko:nu ʃinʃi:ŋkai natan.

63	二郎は 小遣いの ことで おとうとの 三郎と けんかした。	dziro:ja kudzike: dzinnu kutufi ?uttunu saburo:tu ?o:e: çitʃan.
64	三郎は 二郎に げんこつで 頭を なぐられた。	saburo:ja dziro:ŋkai ko:sa:nakai tʃiburu ni:rattan.
65	二郎と 三郎は 喧嘩の ことで じいさんに さらされた。	dziro:tu saburo:ja ?o:e:nu kutufi mppu:ŋkai nura:ttan.
66	その 話は 妻にだけ 聞かせた。	?unu hanaʃi:ja tudzibike:ŋkai ʃikatʃan.
67	あ、雨 (が) ふってきた。	?age:, ?aminu ʃuti kitʃan.
68	やねの 上に いとこの 布団が ほしてあったよ。	ja:nu ?i:ŋkai ?itʃikunu ?udunu ʃutʃe:tan.
69	あーあ、布団が 雨に 濡れて びしょびしょだ。	?a:, ?udunu ?amini ndziti ʃittai battai jasa.
70	きのうは 風が 強かったねえ。	kinu:ja kadzinu tsu:hataŋja:.
71	あれ、部屋の 中に 枯葉が 入っているよ。	?une:, ja:nu nakaŋkai kariba:nu ?ittʃo:N.
72	あの 開いた 窓から 入ったんだよ (入ったにちがいない)。	?anu ?atʃo:ru madukara ?ittʃando:(?ittʃaru hadzi).
73	ほら、真っ白な 鳥が 空を 飛んでいるよ。	?une:, maʃʃiru: tuinu sura tudo:ndo:.
74	あの 羽の 白い、くちばしの 長い 鳥は なんだろう。	?anu haninu ʃiru: kutʃinu nagaha:ru tuija nu: ?e:ga.
75	あの 鳥は シラサギかもしれ ないね。	?anu tuija ʃirasagiru jaru hadzido:.
76	北海道 広かったねえ。	hokkaido:ja çiruha:taŋja:.
77	うん。食べ物も おいしかったねえ。	?o:, kamimunum ma:ha:taŋja:.
78	北海道には クマが いるそう だね？	hokkaido:ŋkaija kumanu wu:ndija:.

79	うん。シカも フクロウも いるらしいよ。	ʔo:, ʃikan ho:hoin wu:ndi.
80	北海道には めずらしい 菓子が たくさん あった。	hokkaido:ŋkaija midʒiraharu kwa:ʃinu ʔoho:ku ʔa:tan.
81	この お菓子は いくらで 買ったの？	kunu kwa:se: tʃassafʃi ko:taga.
82	この お菓子は 北海道で 二千元で 買った。	kunu kwa:se: hokkaido:wuti nisenenʃi ko:tan.
83	おみやげは おばあさんから 先に 上げた。	na:gimuno: pa:pa:kara hatʃini ʔusagitan.
84	ばあさんのと おなじ おみやげを 花子にも かってやった。	pa:pa:tu junu na:gimun hanakoŋkaiŋ ko:ti turatʃan.
85	孫たちに あげる つもりで 菓子を 買って あった。	ʔmmagantʃa:ŋkai turasundi kwa:ʃi ko:te:tan.
86	お菓子は 箱の 中に いくつ あると おもう？	kwa:se: hakun nakaŋkai ʔikutʃi ʔa:ndi ʔumi:ga.
87	やっつぐらい じゃないかな。	ja:tʃigure: ʔaraŋgaja:.
88	四つしか 残っていないよ。	ju:tʃiru nukuto:ndo:.
89	台所に 行ったら お母さんが スイカを 切ってあった。	ʔuʔuntuŋkai ʔidzakutu ʔamma:ga suika tʃitʃe:tan.
90	(包丁があるのをみて) この包丁で 切ったんだ。(切ったに違いない)	kunu ho:tʃa:ʃi tʃitʃan.
91	おまえ、かごは どうやって作るか 分かるか？	ʔja:ja ba:ke: tʃa:n tsukujuga wakato:nna.
92	小刀で 竹を 削って つくると おもう。	çi:gunakai daki waja:ni tsukujundi ʔumujun(ʔumi:N).
93	稲刈りの ときには 子どもにまで 手伝わせる。	ʔnnikai:ne: warabimadi tigane:ʃimi:N.
94	花子は きのうから 病気で ねている。	hanakoja kinu:kara jamme: kakati ninto:N.

95	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。	hanakoja ʔamma:ŋkai muŋ kamahattan.
96	花子は お粥しか 食べられな かった。	hanakoja ʔuke:me:bike:ru kamarantan.
97	医者が くれた くすりを の めば なおるだろう。	ʔifakara turahattaru kusui nume: no:juru hadzi.
98	病気を 治すには たくさん 食べて、 十分 寝なければな らない。	jamme: no:suru tamine: tsuha:ra kadi dzu:bun ninandare: naran.
99	そこには 女しか 入れない。	ʔmmaŋkaija jinagubike:ru ʔiraran.
100	男なら 赤ちゃんでも 絶対に 中には 入れない。	jikiga jare: ʔakaŋgwa jatin ʔikanaʃin nakaŋkaija ʔiraran.
101	教えてもらわなければ なかに 入っていた。入っていたにちが いない。(実際には、入らな かった)	nara:hantare: nakaŋkai ʔittʃo:tan. ʔittʃo:taru hadzi.
102	石と 石の 間から 水が 湧 いている。	ʔifitu ʔifinu je:da midzINU watʃo:N.
103	この 水、沸かした 水より 美味しいよ。	kunu midze: wakatʃe:ru midzijuka ma:han.
104	ほら、ひとくち 飲んでみて。	ʔuri tʃukutʃe: nudi ndi.
105	花子も お菓子が 好きかもし れない。	hanakoŋ kwa:ʃija ʃitʃijaru hadzi.
106	和子と 花子は 友だちだ。	kadzukotu hanako: duʃi jasa.
107	(タバコの吸い殻をみて) 先生 は ここに 居たんだ。	ʃinʃi:ja kumaŋkai wu:te:nde:ja:(wu:te:sa).
108	人は 生きる ために 働かな なければならない。	tʃo: ʔitʃirutamini hatarakande: naran.
109	食べやすい ように お母さん が 団子を 串から 外して あった。	kamijassanne: ʔamma:ga da:go: guʃikara hantʃi ʔatan.
110	おとななのに 卵焼きさえ 作 れないのか?	ʔuʃutʃu jato:ti tamagojakin tsukuiu:hanna.

111	いつも お母さんに つくって もらっていたから 何も 作れ ない。	ʔitʃin ʔamma:ga tsukuti kwite:kutu nu:n tsukuiu:han.
112	まだ 一度も 作ったことが ない。	na:da tʃuke:man tsukutaru kuto: ne:n.
113	私でさえ 持てないのに、お まえには 持てないよ	waga jatin mutʃiu:hammun ʔja:n jare: mutʃiu:han.
114	友だちとの 約束は 守らなけ ればならない。	duʃitunu jakusukuja mamurandare: naran.
115	あの 人こそ 金持ちだ。	ʔanu tʃo: dzimmutʃi jasa.